

平成16年3月28日

「南長崎花咲公園」を拡張、本日新たにオープン！ ～地域で支え、育てる“花咲く”公園が、防災機能を強化し、さらに大きく～

本日28日、南長崎花咲公園（南長崎3-9-22）が拡張・再整備され、装いも新たにオープンした。これにあわせ、地域住民による「南長崎二・三丁目地区まちづくり協議会」（武藤政一会長）主催によるセレモニーが開かれ、華やかに開園を祝った。

南長崎花咲公園は、もともと一人あたりの公園面積が少なかった南長崎2・3丁目地区に、平成11年3月、既存の児童遊園と隣接地を合わせ、公園として整備された。アンケートを行うなど、地域の要望を採り入れた設計により、住民に安らぎと潤いをもたらし、地下には100tの容量をもつ防火貯水槽を備える防災広場としての機能も果たしてきた。

公園内にはその名のとおり、春にはウメやサクラ、夏にはクチナシ、秋にはキンモクセイなどの花木が咲き、公園内の花壇は、地域住民や子ども達のボランティア団体による、丹念な手入れによって季節ごとに彩られ、公園を訪れる人々の目を楽しませてきた。また、地域の児童館の子ども達が手作りし、今も手入れを続ける木製の遊具は、既成の遊具にはない温かみを感じさせ、同児童館出身の学生達によって、落書き防止のためトイレの壁に描かれた絵とともに、この公園の風景を特色あるものになっている。

このように、同公園は地域住民によって支えられてきたが、隣接する駐車場にマンションの建設計画が持ち上がったことや、公園の防災機能をさらに向上させて欲しいという地域の要望を受け、区はこの駐車場の用地を取得、15年12月より公園として拡張整備工事をおこなってきた。設計にあたっては、15年5月より地域住民とワークショップ等を開催、地域から出された案をもとに整備された。約1315㎡あった公園は、この工事によって881.2㎡拡張され、ゆとりと防災機能を強化した公園へと生まれ変わった。

整備された公園内には、開けると、そのまま災害時用のトイレとして使用できるマンホール（写真）や、座面を取り外すと、かまどになるベンチが設置され、災害時に防災拠点として利用するための様々な工夫が施されている。また、園内には50メートルの深さをもつ井戸が掘られ、生活用水として利用できるようになっており、災害時のライフライン確保の一翼を担うこととなる。

セレモニーでは、暖かな春の日差しのもと、まちづくり協議会長や地元町会長、水島区助役等によりテープカットがおこなわれ、桜やハナミズキの記念植樹が行われた。また、江戸芸かっぼれや、地元児童館のチアガールによるダンスなどが披露され、集まった地元の人々と共に、生まれ変わった公園の完成を祝った。

詳細： 公園管理事務所